

第23回夏季ワークショップのご案内

総会・研究大会の前日(8月6日(土))に、研修委員会主管で第23回夏季ワークショップを下記のとおり開催いたします。ぜひご予約をいただけますようご案内申し上げます。

日本学校教育相談学会研修委員会委員長 向江 幸洋

1 日程 8月6日(土)

2 実施形式 オンライン研修 (Zoom ミーティングによるライブ配信)

3 内容・講師

【午前の部:9:00~12:00】

Aコース 「学校の異文化体験から『声にならない声』を聴く」

講師：結城 恵(群馬大学)

Bコース 「今、求められる学習指導 ～個に応じた学びの保障～」

講師：篠ヶ谷 圭太(日本大学)

Cコース 「コロナ禍を機に児童青年精神科医療現場や巡回相談から見てきたもの」

講師：新井 慎一(尾山台すくすくクリニック)

【午後の部:13:00~16:00】

Dコース 「これからの不登校支援 -コロナ禍、GIGA スクールを越えて-

講師：伊藤 亜矢子(聖学院大学)

Eコース 「心を育てるグループワーク -楽しむことから始めよう-

講師：正保 春彦(茨城大学)

Fコース 「研究デザイン及びリサーチクエスションの検討 - 論文作成の基礎的ルールと基本構成 -」

講師：中村 豊(東京理科大学)

4 ワークショップ参加費

参加区分	参加費(1コースにつき)
会員	3,000 円
学校カウンセラー、学校カウンセラー・スーパーバイザー	2,000 円
学生会員(社会人は除く)	2,000 円
会員外	4,000 円

5 定員 各コース 80名(定員になり次第締め切ります)

6 申し込み期間 令和4年6月1日(水)~7月15日(金)必着

7 申込みにあたってのご注意

- (1) 申込み後のコース変更はできません。
- (2) 申込み後に参加取消しの場合、参加費の返金はできません。
- (3) 受付は先着順ですので、申込みが定員に達した場合は申込みを打ち切ります。
- (4) 受講された方には研修修了証を発行します。

8 第23回夏季ワークショップに関するお問い合わせ先

向江 幸洋 (Eメールアドレス:jascgkensyu01@gmail.com)

【第23回夏季ワークショップ・講師の先生方による講座案内】

<午前の部> 9:00~12:00

Aコース「学校の異文化体験から『声にならない声』を聴く」

講師：結城 恵(群馬大学)

【コース概要】(定員:80名)

もしも、転校生として教室に入ったとき、日本の学校の日常はどのように見えるのでしょうか?もしも、自分が話す言語が日本語ではないとき、日本の学校の日常のやりとりはどのように感じられるのでしょうか?

「少数派」の子どもたちの視線に立って学校の日常を見ると、「多数派」にとっては「あたりまえ」になって見えなくなっていることが見えてきます。その「あたりまえ」を見つめ直すことは、持続可能な開発目標(SDGs)が掲げる「誰一人取り残さない」理念を、学校教育の現場で実現するひとつのきっかけになる、と考えます。

本ワークショップでは、学校のなかでの「異文化体験」をみなさまに疑似体験していただく予定です。そして、その体験を日常的に繰り返してきた子どもたちの声を、代弁してくださる方々の声に耳を傾けます。そのうえで、日本の学校の「あたりまえ」がもつ可能性と課題について、みなさまとともに考えていきたいと思ひます。

Bコース「今、求められる学習指導 ～個に応じた学びの保障～」

講師：篠ヶ谷 圭太(日本大学)

【コース概要】(定員:80名)

「個に応じた指導」の重要性は長く指摘されてきていますが、学習者は一人一人、様々な点で異なっており、個に応じた指導を展開する際には、まず、児童・生徒の「個人差」のどの側面に注目すればよいのかを押さえておかなければなりません。また、児童・生徒の「個人差」へのアプローチにも様々なものがあり、具体的にどのような点に注意しながら学習指導を行えばよいのかイメージしにくいという先生は多いのではないのでしょうか。これまで、教育心理学では、学習行動や学習成果に影響を及ぼす個人差要因が明らかにされており、個人差に対応するアプローチとその効果についても実証的な知見が蓄積されてきました。本講座では、学習において重要となる「個人差」の種類について整理した上で、実証的な知見にもとづきながら、「個人差」が学習行動や学習成果に及ぼす影響、さらには、学習指導における個人差へのアプローチの方法や注意点について、お話しします。

Cコース「コロナ禍を機に児童青年精神科医療現場や巡回相談から見えてきたもの」

講師：新井 慎一(尾山台すくすくクリニック)

【コース概要】(定員:80名)

コロナ感染症流行の折、親も家庭内において子どもと向き合う時間が増えたのではないのでしょうか。また学校においては通常の学級運営もままならず、手探りの中教師も子ども達の指導を行う2年間だったのではないのでしょうか。そんな中親や教師も子どもとの関わりで戸惑うことが以前よりも多くなっているように感じています。子どもを育てる時や指導をする時に、「自分の対応が正しいか間違っているか」の思考では迷路に入ってしまう。一見正しいと思われる働きかけも子どもの気持ちを誤解したり、程度を間違えたりすれば逆効果になることがあるからです。子どもを育てたり指導したりする時に大切なのは、「気持ちの探り合い」と「適度に行うこと」「バランスをとること」なのではないのでしょうか。コロナ禍に受診した親子や小中学校の巡回相談を通して見えてきたものを皆さんと共有し、教育相談をする時のヒントをお伝えできればと思っています。

<午後の部> 13:00~16:00

Dコース「これからの不登校支援 -コロナ禍、GIGA スクールを越えて-

講師：伊藤 亜矢子(聖学院大学)

【コース概要】(定員:80名)

近年、不登校支援の目標は、学校復帰ではないことが強調されています。多様な学びを保障する教育の機会均等法や、コロナ禍や GIGA スクールによる遠隔授業の普及など、「学び」についての考え方も、この数年で大きく変わってきました。学校の教室で学ぶだけが「学び」ではない時代です。そうした中で不登校についても、学びが保障されていれば欠席でも「支援」は不要ではと迷うかもしれません。反対に、「学び」の多様性を念頭に置きつつも、従来通り登校させねばという思いにかられて「支援」を急ぐこともあるかもしれません。コロナ関連の欠席が「不登校」に繋がる不安を感じることもあるのではないのでしょうか。本講座では、そうした中で、「不登校」やそのプロセスをどう理解して、どのようにしたら本人や家族の力になれるのか。単なる学校復帰を目標にしない「支援」を行うヒントを参加者の先生方と共有したいと思います。

Eコース「心を育てるグループワーク -楽しむことから始めよう-

講師：正保 春彦(茨城大学)

【コース概要】(定員:80名)

さまざまな臨床場面で用いられてきたグループアプローチ諸技法を、かかわる活動・理解する活動・表現する活動の3つに集約・分類し、再構成しました。インプロ(即興)の発想にヒントを得て、他者とのかかわりを楽しむことを大前提とすることにより、ストレスなく参加することができます。その上で、人間関係・対人スキルの発展の他、相互理解の深化、表現力の向上、共感力の育成などの効果があります。これにより子どもたちは楽しく学ぶことができ、教室での実践に適します。WSでは大小10数件のワークを体験した上で、その概要等について解説を行います。

Fコース「研究デザイン及びリサーチクエスションの検討

— 論文作成の基礎的ルールと基本構成 —

講師：中村 豊(東京理科大学)

【コース概要】(定員:80名)

論文には、学術論文、学位論文、小論文等、様々な種類があります。また、論文構成は目的により異なります。本講座では、日本の学校教育相談に係る学会で発表することを目的とした論文を作成するために、必要な知識・技能についての解説をしていきます。

まず、論文を作成する際に守らなければならない基礎的なルール(引用、表記、図表、約物など)を確認します。

次に、研究倫理に関して、質問紙調査や事例を対象とする場合の配慮事項や、論文作成において留意しておかなければならない重要事項についての理解を深めます。

続いて、研究論文や実践論文の基本的な構成(タイトル、サマリー、本文、引用参考文献、資料、等)及び作成時のポイントについて整理します。

さらに、論文の評価を左右するリサーチクエスションについて検討していきます。

今回はオンラインでの開催となりますが、双方向での講座となることを意識し、受講者の論文作成能力向上を目指します。